

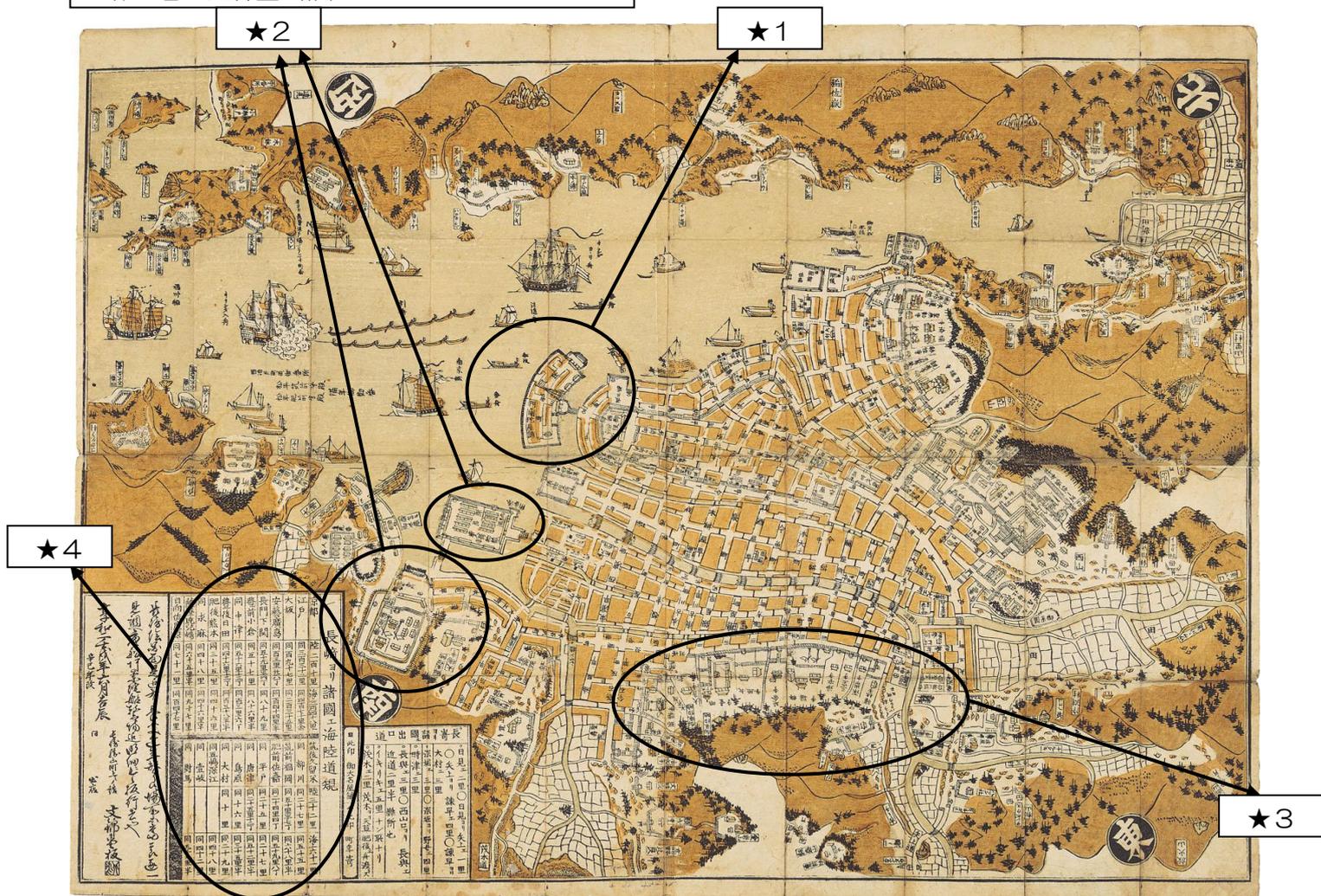
授業で使える当館所蔵地図

No. 13 『肥州長崎図』

作成年：1811(文化8)年

サイズ：88×65cm

作者：文綿堂(板)



【解説】

図の中央を右から左へ流れる中島川には多くの橋がかけられているが、これらは貿易が活況を呈していた延宝、天和、貞享の頃、町人の寄進によってかけられた石橋である。長崎は幕府の直轄領であったが、町政は町人に任されていて、貿易をつかさどる町会所も町人が支配していた。貿易は膨大な利益を生み、町人にさまざまに配分されていたため、長崎は日本で最も裕福な都市であった。江戸時代の長崎は、中国、オランダとの貿易の窓口であり、その影響がよくわかる地図である。

★1 出島

鎖国政策下における唯一のヨーロッパとの窓口。出島は市内に分散居住していたポルトガル人を収容するために、出島町人25人に命じてつくらせた人工の築島である。その規模は東京ドームとほぼ同じである。1939年にはポルトガル船の来航が禁止され、出島からもポルトガル人が追放された。幕府は、1641年に西欧との窓口を出島一カ所とした。出島に居住するオランダ人は総員30人程度であり、少人数であった。周囲は土堀に囲まれ、中央に一カ所出島に通じる橋がかけられ、橋をわたったところに番所があった。出島への出入りは役人、通訳、遊女、特定の商人だけに許されていた。オランダ人は出入り不自由なこの出島のことを「国立の牢獄」と呼んでいた。

★2 唐人屋敷・唐人荷物蔵

鎖国政策下で唯一貿易が許されたのがオランダと中国である。出島にはオランダ人が隔離されたが、中国人は唐人屋敷がつくられ、収容された。中国人は長崎市内に自由に居住していたが、密貿易の多発を受けて、一カ所に収容することになった。それが唐人屋敷である。1689年につくられた唐人屋敷は、出島の2.5倍の広さを持ち、2階建ての長屋が20棟あった。その目的は、密貿易の防止とキリシタン弾圧にあった。唐船で来航する中国人約2000人程度を収容した。当時のオランダと比較すると、人数でも貿易量でも圧倒的に中国人が多かった。また、唐船で運ばれた荷物は、新地「唐人荷物蔵」に収められた。書籍などもキリスト教関係記事の有無がチェックされた。その後この場所は、中華街へと発展した。

★3 寺町

1614年江戸幕府は長崎周辺の諸大名に命じて、長崎の11のキリシタン寺院を破壊させ、キリシタン弾圧を強化した。その一方で、風頭山山麓には仏教寺院が次々と建立され、その数は14にもおよんだ。それらは、幕府のキリシタン禁教政策と歩調をあわせるかたちで、幕府や長崎奉行の援助を受けて、17世紀前半に創建されている。禅林寺から皓台寺までの寺町通りには8つの寺院が並び、そのさまはまさしく「寺町」そのものである。長崎の唐寺のうち、17世紀前半に建立された興福寺・福濟寺・崇福寺を唐三力寺という。唐寺は、開創者が中国人貿易商らであったことからそう呼ばれており、建立の目的はキリシタンでないことの証明と海上安全・商売繁盛の祈願であった。

★4 長崎から各地までの距離

目的地	陸上距離 (里)	海上距離 (里)
京都	二百十里	三百四十八里
江戸	三百二十里	四百四十二里
大坂	同百九十七里	同二百五十二里
安芸廣島	同百九十七里	同四百四十二里
長門下関	同百九十七里	同四百四十二里
豊前小倉	同五十七里	同八十九里
同中津	同五十七里	同八十九里
豊後日田	同四十七里	同八十九里
肥後熊本	同三十五里	同四十六里
同求麻	同四十八里	同四十六里
日向佐度原	同七十一里	同百四十七里

各地の場所が記されている
(京都、江戸、大坂など)

陸上での距離が記されている
(例：京都 二百十里 (780km))
※一里=3.9km

海上での距離が記されている
(例：京都 三百四十八里 (1357.2km))

【活用の例】

○鎖国下の対外関係を知ることができる。

- 鎖国政策下において唯一貿易を許されたオランダと中国を理解することができる
- ・船を見ると、「オランダ入船」、「南京船」などがわかる。

○鎖国下においてキリスト教に対する幕府の対応を見ることができる。

- 「出島」「唐人屋敷」など外国人が一カ所に固められており、人工島をつくって隔離している。
- 貿易の多かった中国に対しては「唐人荷物蔵」をつくり、荷物置き場がある。
- 地図を見ると、寺が非常に多い。
- ・キリスト教が禁止され、それを強化するために寺が次々と建立された。

○交通の情報を知ることができる。

- 長崎からの距離が、陸上と海上の二つに分けて記されている。貿易の要となる場所であることがわかる。